

## 第2回北海道地域学校協働活動推進研修会（道北会場）

【道北】平成29年10月24日（火）（旭川市・上川合同庁舎） 参加者：95名

### 1 説明 「地域学校協働活動等について」

説明者 北海道教育庁義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴宏

石田主査から、地域学校協働活動等における国や道の動向及び状況について説明がありました。

学校支援地域本部、放課後子ども総合プランに関する施策の説明の後、推進状況や道内実践例が紹介されました。まとめとして、全ての児童にとって安全・安心な居場所づくりの重要性が話されました。

参加者からは、「何よりもまず、全ての子どもたちが安心安全に過ごせる場所の確保が必要であると思った」「放課後児童クラブと放課後子供教室を一体型で行うメリットを感じた」等の感想が寄せられました。



### 2 事例報告 「中川町の取組について」

報告者 中川町教育委員会（地域おこし協力隊） 山本 遥氏

中川町で夏季休業中に実施した「夏休みワクワク体験教室」についての事例報告がありました。

本取組は、昨年度まで住民課や児童クラブ、保健福祉部等が行っていた事業を教育委員会が中心となって一つにまとめ、各部署や学校、大学等と連携して夏季休業中の子どもたちの様々な体験活動の機会を提供するというもので、冬季も実施する予定。

参加者からは、「非常に意欲的に、部署や所属を越えて、長い期間の事業に取り組んでいるのが素晴らしい」「多くの機関と連携すれば幅広い活動ができると感じた」等の感想が寄せられました。



### 3 コーディネーター研修

講師 北海道教育庁義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴宏

はじめに、コミュニケーション技術についての演習を行い、コーディネーターとして大切にすべき点を整理しました。

続いて、地域において協働体制を推進するポイントとして、課題解決のプロセス構築について演習を交えながら、「地域コーディネーターの役割」について再確認しました。

参加者からは、「コミュニケーション、課題に対する解決法などを学ぶことが出来た」「他の地域の取組が聞けて、自分たちの活動のヒントに繋がった」などの感想が寄せられました。



#### 4 選択研修「課題解決のためのスキルアップ」

##### A 演習 「障がいのある子どもや特別な支援を要する子どもへの対応」

講師 上川教育局教育支援課義務教育指導班 指導主事 但田寛和

特別な支援を要とする子どもへの対応について、「発達障がい」を中心に行動特性や機能分析、支援・対応策について、講師の体験談や参加者同士の情報交流、演習を交えながら理解を深めました。最後に講師から「子どもを理解し、認め、『良さ』に気付くことが大切」というまとめがありました。

参加者からは「体験談もあり、身近なテーマも多くあり、とても有意義でした」、「今の時代に必要な研修だと思う。子どもと関わる全員が理解していかなければならないと感じる」等の感想が寄せられました。



##### B 演習 「親子で楽しめるプログラム」

講師 カラーセラピスト 建部久美子氏

色が持つ作用や効果について、実際に参加者が色を選ぶところから始まり、選ぶ色から見える心理分析、場面にあった色づかい、活動場所における色の使い方のヒント等について学びました。

講師は「精神状態によって選ぶ色は変わる。親子で活動したり、子どもに活動させたりする中で、子どもと接するヒントにしてほしい」と話しました。

参加者からは、「初めて聞くことだったが、これは役立つと思う」、「大人にも子どもにも自己分析にとっても良い」等の感想が寄せられました。



##### C 演習 「創作活動プログラム」

講師 国立大雪青少年交流の家 石川恵理氏

身近にあるもので行う創作活動として、牛乳パックを使ったクリスマス飾りづくりを、体験をとおして学びました。

牛乳パックのフィルムを剥がすところから始め、各々が創意工夫を凝らした作品制作に取り組みました。講師からは、創作活動を行う上での指導者の視点や注意事項、創造性を育むための留意点についても説明がありました。

参加者からは「すぐに用意できる牛乳パックという材料が有難かった」、「指導する際の気をつけなければならないことも教えていただき、とても参考になった」等の感想が寄せられました。



#### D 演習 「屋内活動プログラム」

講師 道立青少年体験活動支援施設ネイバル深川 主査 横山 宏 樹

教室程度の広さで行うことが出来るプログラムを、体験をとおして学びました。

まず、講師が指導した実際のプログラムの様子を動画で紹介し、それを実際に体験しました。じゃんけんを活用したものを中心に実践した後、講師から指導する際のポイントや、指示の出し方について説明があり、「短く、細かくが原則。限られた時間内に効率よく進めるため、指導の技術も学んでほしい」と話しました。

参加者からは「日頃の声掛けなどを反省する機会となった」、「今後有効に使えるゲームでよかった」等の感想が寄せられました。



#### 3 演習 各地の取組交流

進行 上川教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事 佐々木 直 人

同じ事業区分ごと的小グループに分かれ、日常の取組や悩みなどについて情報交流を行いました。

普段、他地域の活動について情報を交流する機会は多くないことから、参加者たちは、行事や活動、子どもへの対応について積極的に情報を交流していました。

参加者からは「同じ悩みを共有して話し合えたのがとても良かった」、「各地域の取組、子どもたちの様子などの情報交流ができ、大変良かった」、「普段聞けないような細かいことも聞くことができ、有意義な時間となった」等の感想が寄せられました。

